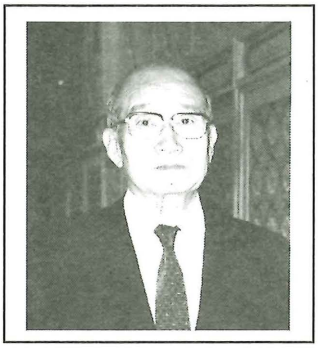
山内豊聰先生のご逝去を悼む



九州大学　理事・副学長　　落合　英俊

本学会元顧問、九州大学名誉教授の山内豊聰先生は平成23年6月8日、89年の天寿を全うし逝去されました。

山内先生は昭和25年、九州大学工学部土木工学科を卒業、直ちに大学院特別研究生に進み、同修了後の昭和28年、九州大学工学部助教授に就任、同43年、教授に昇任されました。

また、九州大学を停年退職なされた後は、九州産業大学工学部教授に就任され、工学部長・工学研究科長、学園理事の要職を務められました。

この間、42年の長きにわたり、高邁な人格と卓越した識見により、学生の教育と後進の指導・育成に力を尽くされるとともに、旺盛な研究意欲を持って、学問の研鑽に献身されました。また、山口大学、九州工業大学、宮崎大学、徳山工業高等専門学校などにおいて非常勤講師を務められ、広く学生の教育と人材育成に尽力されました。

学外においては、日本学術会議会員、学術審議会委員などの要職を歴任され、我が国の学術の振興と発展に多大な貢献をなされました。また、官公庁や公団公社等の審議会や委員会にも、土木工学・土質工学の有識者として数多く参画され、我が国における社会基盤の整備・充実に大きく貢献されました。このようなご功績により、勲三等旭日中綬章を受けられています。

さらに、国際ジオテキスタイル学会（現、国際ジオシンセティックス学会）日本支部、土質工学会（現、地盤工学会）、土木学会、日本応用地質学会、日本自然災害科学会、日本材料学会等の学協会においても、優れた識見と豊富な経験を活かし、理事、委員長、支部長等の指導的立場から、学会の発展と技術の水準向上に大いに貢献されました。

先生の研究は多岐にわたっていますが、常に知的好奇心に溢れ、新しい発想で学問の先端を開拓されてきました。特に、土質工学、地盤工学に関しては、我が国における先駆者のお一人であり、その黎明期から今日の発展をみるまで力を尽くされたご功績はまことに多大なものがあります。なかでも、地盤の安定と補強技術に関する分野では、今日、世界各地で普及している地盤補強技術の発展の基礎となる優れた研究業績を数多く挙げられ、世界的パイオニアとして、国内外で指導的役割を果たされました。とりわけ、1960年代に考案・実用化された二つの工法、すなわち、高含水比の沖積粘土を使って築堤あるいは盛土を構築する「ファブリック・生石灰サンドイッチ工法」と、「拘束層（restraint layer）の概念」を導入して考案されたポリエチレン製プラスチックネットを用いた軟弱地盤の支持力改良のための「敷網工法」は、近年、世界各国で急速な発展を遂げている地盤の補強技術に関する先駆的な実用研究として、国際的にきわめて高い評価

が与えられています。なお、後者の工法において提案された「拘束（restraint)」の概念は、後にイギリスで開発された延伸製ポリマーグリッド材の参考になったと言われています。

また、しらす、有機質土などわが国に広く分布する特殊土の研究は先生の畢生の仕事であり、しらすについては安定処理、浸食、強度、液状化、斜面安定など広い分野からその力学的特性を解明し、しらす地帯における建設技術ならびに防災技術の確立に多大な貢献をされました。さらに、有機質土の研究にもいち早く着手し、その化学的、物理的、力学的特性を系統的に解明して各種有機質土間の関連性をとりまとめ、試験法の基準化制定に大きく寄与されました。それらの成果は多数の論文、学術資料、著書として公表され、その内容は国の内外で高く評価され、初回の土質工学会論文賞（現、地盤工学会論文賞）を受賞されています。

先生の研究に対する姿勢は、常に世界に向いていました。専門分野においてわが国を代表して国際学会の各種委員や国際的専門誌の編集委員などを務められたほか、海外のいくつもの著名大学から客員教授などとして招聘され、外国人研究者、技術者の受け入れにも力を尽くされ、学術の国際交流に大いに貢献されました。ジオシンセティックスの分野においても、その卓越した実績に基づき、延伸製ポリマーグリッド材のわが国への導入・普及・定着に尽力されるとともに、国際シンポジウムやセミナー等の開催を通して、世界に向けての研究成果の発信と研究者・技術者の国際交流の進展に多大な貢献をされました。

先生は昭和29年から1年間余、訪問研究員としてMITに留学されました。その経験から、外国留学がその後の成長に必ず役に立つと考えておられ、弟子達には、機会あるごとに外国留学を勧められ、国際感覚の重要性、国際活動の大切さを語られていました。

また、その姿勢は先生の学会活動にも反映されていました。先生は、地盤工学会九州支部に、わが国で最初に国際委員会を設置されるとともに、地盤補強に関する研究成果と設計施工の実績を踏まえて、1988年に第1回のIS-Kyushu（地盤の補強に関する国際シンポジウム）を開催されました。このIS-Kyushuの開催が、現在、地盤工学会において広く行われているIS シリーズの発端となったことは、世界でも広く知られています。また、このIS-Kyushuの開催を契機にして、九州支部の国際化は一層促進されることになり、今では、国際研究集会の開催も日常的な活動として行われるようになっていますし、次回の第15回国際地盤工学会アジア地域会議の福岡開催決定にもつながっています。このことは、山内先生の教え・指導が世代を超えて確実に引き継がれていることを示しています。

このたびのお別れで先生の謦咳に接することができなくなることは残念の極みでありますが、ここに山内先生のご功績とお人柄を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。